

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 東松島市立矢本第二中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 110名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合・保健体育)</p> <p>② 行事名 (オリンピックパラリンピック講演会)</p> <p>③ その他 (障がい体験授業)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツへの多様な関わり方があることに気付かせ、国際交流を進んで行う生徒を育成する。
5 取組内容	<p>○9月</p> <p>講演会を行うことを事前に周知し、その事前学習として、オリンピックの歴史や文化を学ぶ機会を設定した。担当がスクリーンを使って行う授業を、各クラスリモートの形で受講した。パラリンピック公式教材の「I'mPOSSIBLE」を活用し、生徒が興味関心を持ちやすいような展開で、知識の定着を図った。</p>



○10月

フェンシング元日本代表の千田健太氏を招き、講演会を行った。実際にオリンピックに出場したときのこと、そこにたどり着くまでの経緯や心境の変化など、詳しくお話しいただいた。生徒も、競技者という立場で、自分自身と重ね合わせながら講演を聴いていた。

公演後の質疑応答でも、緊張した時の対処法や、上達するために必要なことなど、多くの質問が挙がった。



○11月

東北文化学園大との連携事業の中で、教授や学生に協力してもらいながら、「障がい体験学習」を行った。視覚を失った想定で白杖を使って歩いたり、競技用の車いすを使ってバスケットボールをしたりするなど、非日常的な体験をすることで、生徒にとって有意義な体験となっていた。パラリンピックとの関連もあり、日常生活の困難さや、その中で競技を行う選手のすごさを肌で感じていた。



○12月

道徳の授業で、「希望と勇気」を価値項目とし、「風を感じて - 村上清加のチャレンジ」を取り扱った。パラリンピックに対しての理解が深まっていることもあり、当事者の立場から考えている様子が多く見られた。

6 主な成果	<p>今年度が、オリンピック・パラリンピックの開催年であったこと、開催国が自国であったことから、生徒の興味関心を向けることができた。事後の感想からは、講演会を通してオリンピックの意義や歴史を学ぶことに加え、アスリートの言葉に勇気付けられたという生徒も多かった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>大学との連携事業の中で行った、「障がい体験学習」とパラリンピック教育との関連を図った。体験を通して、四肢を思うように動かせないことの不自由さを実際に感じ、その中で競技を行う選手に対する敬意が芽生えるような展開とした。</p>
8主な課題等	<p>コロナ禍で、講演会の中で実際に競技体験をすることができなかったため、何らかの形で実践ができると良い。オリンピックの技術を直接見たり、やってみたりすることで得られる経験は大きいと感じる。</p> <p>パラリンピック競技用具を、各学校で所持していることは少ない。学校同士や社会施設と連携を図り、使用できるものを共有したい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>講演会でのフェンシングをはじめ、競技や大会について多くの知識を得たため、スポーツや運動に関わるひとつのきっかけにさせたい。また、パラスポーツも、できるものは実物を用いて授業の中で取り扱い、オリンピック・パラリンピックに対する意識を継続させていきたい。</p>